

令和元年度 糸魚川市駅北復興まちづくり計画評価委員会（議事録）

日 時	令和2年3月24日(火)13時15分～14時45分	場所	糸魚川市役所 203、204 会議室
件 名	<p>○議事</p> <p>(1) 令和元年度 復興まちづくり計画の取組と評価について</p> <p>① 内部評価結果（全体概要） ……資料1</p> <p>② 内部評価概要（重点プロジェクト） ……資料2</p> <p>1) 大火に負けない消防力の強化 参考資料1</p> <p>2) 大火を防ぐまちづくり 参考資料2</p> <p>3) 糸魚川らしいまちなみ再生</p> <p>4) にぎわいのあるまちづくり</p> <p>5) 暮らしを支えるまちづくり</p> <p>6) 大火の記憶を次世代につなぐ</p> <p>③ 被災者・関係者アンケート結果 ……資料3</p> <p>(2) 復興まちづくり計画評価委員会の終了について ……資料4</p> <p>(3) その他</p>		
出席者	出席委員：中出文平委員長、関澤愛副委員長、江口知章委員、岡崎篤行委員		
事務局	見辺産業部長、五十嵐市民部長、丸山消防長、渡辺企画定住課長、斉藤復興推進課長、五十嵐建設課長、竹田消防防災課長、渡辺復興推進課長補佐、大西総務課長補佐、林建設課長補佐、田代消防防災課長補佐 ほか職員4名		
傍聴者	3人（報道関係2社）		

会 議 要 旨	
1 開会	<p>司会：事務局長 糸魚川市産業部復興推進課 斉藤課長</p>
2 市長挨拶	<p>・本日は、委員の皆さまにおかれましては、年度末の大変お忙しいなか、ご参集賜り誠にありがとうございます。また、日頃より糸魚川市駅北大火からの復興まちづくりに関し、専門的な見地からご指導とご助言を賜っておりますことに、改めてお礼申し上げます。</p> <p>さて、大火から3年余りが経過したなかで、被災された方の住宅や店舗の再建が完了し、4月には待望しておりました駅北広場「キターレ」を開業いたします。被災した地域だけでなく、市民が活動・交流する場として大いに活用いただき、市街地として魅力のあるまちづくりに寄与できるものと期待しております。</p> <p>復興まちづくり計画も5年計画の折り返しを過ぎ、4年目を迎えようとしていますが、引き続き、計画の着実な推進に努めてまいりますので、委員の皆様からも格別のお力添えを賜りますことをお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。（市長退席）</p>

<p>3 議事 (1)-① 中出委員長</p> <p>中出委員長</p> <p>関澤委員</p> <p>斉藤復興推進課長</p> <p>関澤委員</p> <p>斉藤復興推進課長</p> <p>(1)-②-1) 中出委員長</p> <p>中出委員長</p> <p>関澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事①「内部評価結果（全体概要）」について、事務局説明願います。 <p>（事務局説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今ほどの説明に対し委員の皆さまからご意見、ご質問等ありましたら承りたいと存じますがいかがでしょうか。 ・計画に対して遅れの施策のうちの1つ、にぎわいの拠点施設の整備についてですが、方向性がなかなか定まらないという何か遅れている理由がありましたらご説明ください。 ・計画当初には、具体的な用途や機能等が考えられていたわけではなく、大きなくりで位置付けをしていたわけですが、実際に今後のにぎわいづくりや、市全体の活性化に資するもので、どのような機能と規模がいるのかというのを、市民のニーズを捉えながら考えていかなければいけないため、現在、まちづくり会議の中で模索しており、そういった意味で時間がかかっているということでございます。 ・計画が頓挫しているというわけではないということですか。 ・計画が頓挫しているというわけではございません。 <p>（他に質疑なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事②「内部評価概要（重点プロジェクト）」の1つ目、大火に負けない消防力の強化について事務局説明願います。 <p>（事務局説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それでは質問ご意見を承りたいと思いますが、まず、よろしければ関澤先生からお願いします。 ・ほぼ計画通り進んでいるということで、特に大きな問題はないように思います。新たな防災設備、防火水槽とか取水口ができ、また、復興計画の区域以外の糸魚川市全体で屋外消火栓に40ミリホースを配置したことも含めて、復興地域以外にも広がっているところは高く評価できると思います。 <p>　　今後は、せっかく作ったものを宝の持ち腐れにしないように、これを活用して、今後の防災まちづくりとか防災活動の活性化につなげるように、ぜひお願いしたいと思います。</p> <p>（他に質疑なし）</p>
--	---

<p>(1)-②-2) 中出委員長</p>	<p>・それでは続きまして、二つ目の大火を防ぐまちづくりについて事務局説明願います。</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・こちらについてもまず初めに関澤先生からお願いします。</p>
<p>関澤委員</p>	<p>・今日、会議の前に少しまちを歩いてみたのですが、防火水槽のある広場（駅北広場）の上に施設ができていて、これが今後、防災設備としてだけでなく、先ほどにぎわいの拠点施設の話もありましたが、復興地域の中心的な存在になるのかなという気がいたしました。</p> <p>防火性の点からいうと、いったん更地になって建物が建っていくなかで、道路拡幅もかなりの程度進んでいますし、建物自体も不燃性の高いものに建て替わっていますので、防火性については向上したものと考えられます。ただ、資料にもありますが、一番の主軸であった雁木通りのところが道半ばで、これが完成するまでは、もうちょっと奮闘が必要ですので、引き続き努力していただければと思います。</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・私の方からも。一番大きな広場（駅北広場）とそれ以外の広場も含め、ほぼ整備済みだと思いますが、これもハードが整備されたあと、そこをいかに使っていくか、或いは維持管理していくかということが大事だと思います。</p> <p>特に、市が作ったから市が管理をするのではなく、地区に住んでおられる方、或いは働いておられる方々が、日頃から広場に気をかけてメンテナンスをしてもらうということが、今後大事になってくると思います。</p> <p>計画を立てて事業を実施した後、それをどう維持していくかが今後の課題、全般的に言える課題だと思いますので、ぜひその辺の仕掛けしながら進めてもらえればと思います。</p> <p>(他に質疑なし)</p>
<p>(1)-②-3) 中出委員長</p>	<p>・それでは、次に3番目の糸魚川らしいまちなみ再生について、説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・こちらについては、まず岡崎先生お願いします。</p>
<p>岡崎委員</p>	<p>・まちなみのことは、それぞれお住まいの方々の事情がありますので、なかなか計画通りにはいかないのが一般的ですが、そういう意味では、順調に進んでいると感じました。</p> <p>まちなみは、10年で終わる話ではありませんので、今後どうするかが問題なわけですが、まちなみ環境整備事業は普通10年1期で、その後があるのかどうかは存じ上げませんが、2期目に同じ事業なのか違う事業なのか、そういうことも検討していただければと思います。</p> <p>その時に、気になるのは例えば雁木をせっかく整備しても、これが10年とか</p>

経過すると老朽化してきます。その時に、今回は、お金の面でも人的な面でも行政の全面的なバックアップがありました。次できるのかというようなこともありますので、ここで頑張ってきたことが後々に続くように、何らかの仕組みが要るのかなと思います。雁木でその辺がうまくできているところが他にあるかといえば、そうあるわけでもないのですが、一般的に言えば協議会的なものを所有者さんたちで作っていただくことも必要かなと思います。ゼロから作らなくても町内会的なものから始めてもよいです。

それから、雁木は新潟県内にいけば、よく話を聞きますが、ちょっと外に行った時に雁木を知っている人がどれぐらいいるかという、あまり有名でないとか、ほとんど知られていないという状況です。せつかく糸魚川には、雁木がたくさんありますので、今後観光サイドとも協力してアピールしてもいいのかなと思います。

それと、糸魚川は大変いいまちなみだと前々から思っていますが、やはりそれを含めてアピールする取り組みを観光が担っていくのだと思いますが、ボランティアガイドのような方々と連携して、まち歩きとかそういったことの中に、今回整備したのもコンテンツに入れていただいたら良いと思います。復興をはじめ防火、防災の取り組みもおそらく全国トップクラスです。ですからそれ自体も研修や視察、或いは観光のコンテンツになると思いますので、そういったものに、これから先少しずつ生かしていただければと思います。

まちなみに継続的に取り組む上で、一番基本的なツールになるのは景観法の景観計画ですので、今回、限定的に作られたガイドラインなんかを、より永続的に或いは全市的に広げていくためには、景観計画の策定も是非、ご検討いただければと思います。

最後に、少し細かいことですが、本町通りの無電柱化と美装化に関して、結構どこも苦労していて、特に路肩の部分をコンクリートでやる場合の仕様は、かなり細かく検討しないと、やってみたらなかなかうまく行かないということもよく起きることです。特に、コンクリートはアスファルトのように簡単に埋めたり、戻したりできないので、そこら辺も含め、また他の事例も含めて、維持管理面の観点からも、事業化の時点でさらに詳しくご検討いただければと思います。以上です。

中出委員長

・私の方からも1点だけ。先ほど説明の時に道路の美装化とか無電柱化の時に、商売をしている方から、商売しにくいという話があるということでしたが、歩道が美装化されて無電柱化されたときには、商業的にも絶対に良い環境になるわけですし、観光の目玉として歩き回った時にも心地よい空間ができることは明らかですので、そういう点も含めて事業所、或いはお住まいの方々にもきちんと説明をして、今の半年、1年ではなく5年後10年後も見据えて、まちづくりという観点で考えて進めてもらえればと思います。

岡崎先生のご意見も基本的には、事業が終わった後の継続性をどうするのかというところだと思いますので、そのあたりを視野に入れていただければと思います。

(1)-②-4
中出委員長

・それでは続きまして、4番目のにぎわいのあるまちづくりについて説明をお願いします。

<p>中出委員長</p> <p>江口委員</p>	<p>(事務局説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こちらについては、まず江口部長からお願いします。 ・私の方から2点ほどお話をさせていただきます。 <p>まず1点目は、にぎわいの拠点施設の整備について、計画の遅れという形になってはいますが、引き続き市民の方々と継続して話し合いを続けていくことに尽きるかと思えます。</p> <p>実際、施設の内容については、市民の中に色々な意見があるのも事実でございます。今ほどご説明いただいた通り、まちづくり会議で議論をしているまちづくり戦略との整合性も必要になってきます。さらに言えば、4月にオープンするキターレの利用者や一般の市民、民間事業者の方々など、色々な方々の意見を吸い上げながら、丁寧に進めていった方が良いと思います。</p> <p>もう1点は、駅北広場キターレについてですが、こちらの方は整備が終わっていますので、4月以降の活用・運用方法に注力していかなければいけません。今日、私も拝見しましたが、屋外広場とホール、エントランス、厨房と4つあり、それぞれの運用方法があるかと思えますので、指定管理者と連携する中で、にぎわいの創出につなげていただければと思います。</p> <p>特に、厨房と屋外広場は市民の憩いの場だったり、趣味を披露する場であったりすると思いますが、できればあの場所から創業に繋がって駅北で店を始めるといった人が出てくると、新しいにぎわいの流れが生まれるかなという気がします。今日拝見した感じとしては、あそこでチャレンジする方がいらっしゃるのであれば、当初はできるだけ料理に特化していただき、それ以外の接客等のオペレーションや集客を含めた情報発信の方は、指定管理者の方が担うということで、役割分担を明確にした方がいのかという気がしました。</p> <p>また、先ほどのお話だと今までやってきたワークショップや講師を呼んだ料理教室みたいなもので、料理好きな人を増やしていきながら、店舗開店を目指すようなチャレンジングな人まで、裾野を広く進めていかないと、あそこを利用する人が先細りしていくこともあり得ますので、両方合わせてやっていくのが良いと思います。</p> <p>私どもの方で、県内の創業者の方々にインタビューする機会があり、その際、最初は集客するにはどうしたらいいか、うまくいくにはどうしたらいいかという創業前のビジネスプランに頭を悩ますのですが、実は創業してからも頭を悩ますものがあって、税務だったり法務だったり、雇用であったりという悩みも聞かれましたので、やはり創業前後を含めたトータルな支援が必要になってくるのかなと思います。その各段階に応じた支援策が必要になってきますので、この辺は商工会議所や各種専門家の方々との連携も必要になってくるでしょうし、創業者からは創業者同士の繋がりが有難いとか、創業した先輩からのアドバイスもすごく有効だという声もありましたので、その辺の人の交流もあわせて進めていかないと、なかなか今の時代、創業というのは難しい状況です。</p> <p>いずれにしても、今ほどお話があった通りハードだけではなかなかうまくいかないところがありますので、工夫を重ねて整備したハードをうまく運用する方法を皆さんで頑張ってお進めいただければと思います。</p>
--------------------------	---

中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今ほどおっしゃったように、器を使って、特に駅北広場を使って、それがシートベッドになって、新たに創業してもらおうというところまでいくのが、第一段階です。これを継続して行っていただくために、何か仕掛けるだけではなく、維持していくことの仕組みも必要ですので、その辺りを商工の方とうまく結びつけ、それに観光誘客というものが結びつくような形で進めていただければと思います。
関澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある情報センターが駅北広場の方に入っていくとのことですが、イベントの時だけ利用するのではもったいないので、大火の常設展示もありますし、ふらっと立ち寄り、糸魚川に来たら、やはり火災の状況を見て、また話も聞いて、いつでも立ち寄れる場所として、町の人がイベントとか飲食店に食べに来るといことだけでなく、外部の人も一般の人も立ち寄れるような施設にする工夫をしていただきたい。今のところ、にぎわいの拠点施設ができていない中で、当面はそれに代わるものとして、中心部にもあるし、防火水槽も見せるようにしてありますので、是非とも活用していただきたいなと思います。 <p>(他に質疑なし)</p>
(1)-②-5) 中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、5番目の暮らしを支えるまちづくりの説明をお願いします。 <p>(事務局説明)</p>
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらについても、まず江口部長からお願いします。
江口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1点質問なのですが、復興まちづくり情報センターについては、駅北広場の指定管理の方と一緒にのですか。言いたいこととしては、まちづくりと復興の視察などをうまく連携しながら、よりパワーアップした活動を続けていければいいのかなという趣旨なのですが、運営主体について教えてください。
斉藤復興推進課長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報センターについては、視察対応と地域の活動支援という二つの役割がありました。視察対応については今後、駅北広場の指定管理者が受け持つこととなりますし、地域の活動支援については、新しく入る集落支援員と地域おこし協力隊員が担います。同じ館になりますが、役割としては分けた形にしております。なお、指定管理者は、今までの情報センターのメンバーを中心に新たに創設されたBASE 968という会社でございます。
中出委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・復興からもう少し長い軸足で、まちづくり全体のことを考えるとすると、今そういうまちづくりに関係する組織が指定管理者になって、単純にここだけでなく色々なことを担っていただけるのは良いことだと思います。是非、うまく続けてもらうことと、江口部長が言われたように活動については、指定管理者がオペレーションするべき部分とそうでない部分、創業に向けてとか新しい部分、そういうものを全て指定管理者に丸投げするだけでなく、色々と考えていただければと思います。 <p>(他に質疑なし)</p>

<p>(1)-②-6) 中出委員長</p>	<p>・それでは、最後、6番目の大火の記憶を次世代につなぐについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・これについては、まず関澤先生をお願いします。</p>
<p>関澤委員</p>	<p>・継続的に記憶を語り伝えるというのは、なかなか難しいことです。これから問われるのであって、今はまだ3年ですし、資料にあるように色々な試みが、まだ記憶に新しい中で、参加者も多く続けてこられたと思いますが、今後これを10年20年と若い人に継承していくというのが一番大事なことです。</p> <p>例えば、子ども消防隊にしろ、大火展示にしろ、特にここが良い悪いとかいうことはないのですが、3年とか数年で終わらずに、どうやって5年10年というような活動として維持できるのか、その辺を今後、しっかりと方向を出して行って欲しいなという気がいたします。</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・今ほどの記憶や教訓をちゃんと伝えていくということに関し、先日、東日本大震災9年目の時にテレビ見て思ったのですが、わずか9年間という中で、子どもたちの中には、それを経験していない子が沢山いて、伝えようとしても口だけではなかなか伝わらない。</p> <p>そういう意味でいうと、子ども消防隊の活動も大事ですし、或いは駅北広場の展示を小学校の社会活動のときに必ず見てもらうなどして、火災があったという事や何か起きたときには、こういう風にしなければ駄目だよという予防的な事を含め語り継いでいくなど、息長く行われる仕組みにしてもらえればと思います。</p> <p>もう一つ、以前に事務局から復興まちづくりマンホールふたのことで話をお聞きしたのですが、聞くところによるとカードを集めている人が、ガス水道局に行き、もらうだけで帰ってしまうという人が沢山いるそうです。ガス水道局の方で配るのをやめて駅北広場だけにして、なおかつ、まちの中の例えばヒスイ王国館の駐車場にとめてもらい、そこから歩いてカードをもらいに行ってもらって、まちを見てもらう、復興の状況を見てもらうことが必要だと思います。</p> <p>私も何枚かカードを持っていますが、例えば福岡は、まちなかの市民が集うところで受け付けて配っていますが、観光客もそこへ行くには歩いていくしかないなので、周りを見ますよね。もう既に1,814枚配られているということですが、こういう物も記憶をつなぐ大事な手がかりですし、できれば第2弾をつくれれば、また同じようにつないでいけることもあると思います。建物を作るのとは違って沢山の金がかかるというようなものではないので、こういうソフトの手立ても大事だなと思いました。</p>
<p>関澤委員</p>	<p>・ひとつ提案です。復興した地区のいろんなポイントを街歩きのコースとかにこれから決めていかれると思いますが、スタンプラリーみたいにして、スタンプを全部集めてきたら、カードがもらえるような、単に歩くだけでなくポイントポイントを見て歩いてもらうという形にすると、駆け足で回ることがあるかもしれませんが、今よりはいいかなと思います。</p> <p>もう一つは、40ミリホースを復興地域だけでなく、糸魚川市全体に400セット置いたことで関心も高まり、住民が消火訓練に参加できるようになっている</p>

<p>中出委員長</p>	<p>と思うので、ぜひ 12 月 22 日の大火のあった日に、各地区一斉、或いは一斉でなくてもいいですが、その前後に各地区で 40 ミリホースを引っ張り出してきて、夏にもやるし冬は絶対この日にやるんだということで、駅北だけでなく、まち全体でそういうことが行われるようにしていけば定着していくのかなという気もしました。</p> <p>・9 月 1 日の防災の日というのは、関東大震災のあった日で、うちの母は横浜にいたのですが、9 月 1 日の直前になると防火用の水を取りかえます。関東地方の人は 9 月 1 日が防災の日で、その日に防災訓練をしたり、防災グッズの入れ替えや点検をしたりというのが定着していると思いますし、それと同じようなことが、今ほど関澤先生が言われたような形で、糸魚川で行われるような仕組みにさせていただくと良いかなと思います。</p> <p>(他に質疑なし)</p>
<p>(1)-③ 中出委員長</p>	<p>・③の被災者関係者アンケート結果について、事務局説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・今ほどのアンケートの結果について、質問ご意見ございましたらお願いしたいと思います。</p> <p>私の方から 1 点。回答率が 30%というのは去年も申し上げましたが、おそらく高齢の方が多いので、なかなか答えていただけない部分もあるかと思っています。それは致し方ないとして、逆手にとると 61 票しかないのも、もう少し細かく分析することもできるかと思っています。どういう年齢層のどういう方が、どういうポイントをつけてどういう自由意見を言っているのかが大事だと思います。</p> <p>誤解のないように言わないといけないのですが、何事にもマイナス側で評価する人と、何事にもプラス側に評価する人がいます。マイナス側で評価する人の中でもオール 1 でつけずに、どれか 1 つでも 3 でつけている場合は、普通のレベルでは他が 3 でその項目だけ 5 だとも捉えられますし、アンケートが面倒くさいと思う人は全部普通の 3 をつけているような場合もあります。そういうものは、書いてあっても集計しないほうが良い可能性もありますし、全部高い評価で 5 をつけている人でもあまり考えずにつけていることもあるので、数字以上にどういうふうに答えていただいているかという事と自由意見がどう連動しているかをもう少し丁寧に読むと、本当に参考になる意見が出てくると思います。</p> <p>例えば、こども消防隊の活動への疑問と高評価という相反する意見も、どういう方が疑問に思っていて、どういう方が高評価に思っているかは、どちらかの顔を立てればどちらかの顔が立たないことになりませんが、市がこういう思いを持ってやっているということに評価してもらえたらそれで構わないと思います。だからといって、市でやっていることに対して無批判に賛成で何もかも良かった良かったということでもないと思いますので、何千票というわけではなく 61 票、逆にいうと情報が少ないからこそ、そういうところをもう少し丁寧にモノグラフ的に見ていただくことがあっていいかなと思いました。</p> <p>それが、今後の継続的なまちづくりの時に、どういう事について、もう少し強化していった方がいいのか、或いは全体評価が良いものについては継続してい</p>

	<p>けばいいのか、或いはもうそれほどやらなくてもいいのではと言うと誤解もありますが、何とかなるのではないかという事もあると思いますので、その辺りをもう少し丁寧に読んでいただくといいかなという気がします。</p> <p>我々がアンケートをやる時には、単純集計だけでなくクロス集計とか、この答えに対して自由意見はどう答えられているのかということを表でプールしてみたり、クロスを取ってみたり色々な分析をするのですが、時間をかけてじっくり評価していただくとアンケートを有効に使えるのではないかなと思います。</p> <p>(他に質疑なし)</p>
<p>(2) 中出委員長</p>	<p>・それでは続きまして、議事の2、復興まちづくり計画評価委員会の終了について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(事務局説明)</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・説明いただいたように、計画そのものは順調に推移していて、必ずしも復興計画だけではなく、それ以外の糸魚川市全体での行政事業として進めていくことも沢山あると思いますので、この評価委員会という形で評価をするということについては、今年度で終了とさせていただきたいという事務局の案ですが、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員会らから「はい」の声)</p> <p>どうもありがとうございました。それでは、本日の委員会をもちまして最終とさせていただきます。</p>
<p>(3) 中出委員長</p>	<p>・議事の3、その他について委員から何かございますでしょうか。</p>
<p>関澤委員</p>	<p>・私から中出先生に是非ともお聞きしたい。最初の委員会の時にも話が出たと思うのですが、酒田大火が1976年にあって、当初は復興まちづくりとしては非常に評価が高くて不燃性も高まったのですが、それが今では結構寂れていて必ずしもうまくいっていないとお話されていたと思うのですが、なぜ酒田ではそのような辿りをしたのか、そうならないためにはどういう事が必要なのかお聞きできればと思います。</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・酒田大火の時は、私はちょうど学生で、隣の研究室の伊藤先生が復興計画に関わっていたのでよく見ていたのですが、酒田は街の外れに駅があって、いわゆる観光地である豪商の所、それからもう一つ観光地にある港がそれぞれかなり離れていて、そのちょうど真ん中の部分が焼けている形になります。</p> <p>「本間様にはなれなくても、殿様にはなりたい」とも言われますが、本間様の所と港には車で来られる方はそのまま行きますし、駅に着いた人もバスで行ってしまうと商店街を通り過ぎる形になります。</p> <p>私も酒田のまちが好きなので、倉庫がある所とかに行く時は、電車で行って</p>

	<p>から歩いて 20 分くらいかけて行っても、商店街の脇を通る形になります。本間様のお屋敷は商店街の脇ではありますが、少し離れていてあまり連動しておらず、うまくいかなかったのではないかと思います。糸魚川は、そういう意味では駅から近いことや観光の目玉になるようなものがあるかという残念ながら本間様の屋敷ほどのものは無いかもしれないですが、海に出ればヒスイを拾えるかもしれないというのもあるので、まち全体として復興に取り組んでいくという形をとれば、酒田のようにはならないと思います。</p> <p>それから少し、しんどい話をしますと、酒田は郊外に大型店が沢山できたんですね。酒田と鶴岡の間の三川町という所に、新潟県内にもほぼすべての市にあるような東京資本の巨大店舗があり、そういう所に結局市民が行ってしまい、中心市街地をうまくできなかった部分があります。</p> <p>糸魚川も郊外店舗がないわけではないと思いますが、郊外店舗との折り合いをつけ、先ほど駅北のスーパーが閉店という残念な話もありましたが、逆にもっと小規模な自治体でまちなかに市が直接運営したり、3 セクにしたりという形でスーパーを誘致している自治体もあります。</p> <p>高齢者の方が歩いて毎日の買い物ができるような仕組みにしておく必要があって、郊外の店舗へ 30 代とか 40 代の子育て世代が車で行ってしまうのは致し方ない部分もありますが、今後そういう年齢層も減っていきますので、大型店が郊外で頑張れるのはあと 10 年ぐらいかもしれないかもしれません。郊外の大型店がなくなった時に、ふと気が付いたら町中に何もなかった、市民が買い物できるところが、どこにも無いということにならないためにも、ぜひまちなかの個店、もしくは食料品スーパー等々が生き残っていくように、本当に大変だとは思いますが頑張ってもらえればと思います。</p> <p>あとは、なるべく町の近くに住んでもらうという事をどう進めていくかです。車で行くと 3 分ぐらいでスーパーがあり、そこばかり使うという生活が成り立ったのがここ 10 年ぐらいで、これから先 10 年ぐらいだと思いますが、そういう方向ではないようになるといいなと私は思っています。</p>
中出委員長	<p>・最後のその他について、事務局の方から何かございますか。</p> <p>(事務局「なし」の声)</p>
中出委員長	<p>・事務局からはないということですので、委員会は今日で終了させていただきますが、評価委員会を 3 年にわたり進めてきた中で、各委員から今後の糸魚川の復興まちづくり、或いはそれ以外のことで結構ですので、全般的なアドバイスをいただければと思います。</p>
関澤委員	<p>・繰り返しになりますが、防災設備に関しては、私も提案させていただいた大型防火水槽や無限水利である海水とか奴奈川用水などの自然水利の利用ということに加え、復興計画以外の密集街区における防災対策事業を始めていて、そちらの方もお手伝いさせていただきました。そのなかで、市内にある 65 ミリホースを 40 ミリに変えていけば住民が使えるということをお願いしたら、それがきっかけで 400 セット替えていただくことになり、糸魚川市全体の住民にインパクトを与えていると思います。</p> <p>設備は整いましたが、それを今後活用して是非とも防災活動、或いは 12 月 22 日には全地区一斉にやるとかのきっかけにして、まちの活性化につなげていただきたい。駅北だけでなく市全体で防災をきっかけに駅北大火をテコにして、</p>

<p>岡崎委員</p>	<p>まちを活性化することにつながって欲しいですし、私はそれを見守っていききたいと思います</p> <p>・糸魚川の魅力の一つはやはり、雁木と町屋だと思います。アンケートにも、その懸念も示されており、所有者個別の問題で簡単なことではありません。例えば、雁木も立派過ぎるという意見もありましたが、そもそも雁木というのは附属的な物なのに、現在の法規に当てはめるとだんだん立派になってしまうとかの事情があると思いますが、色々なやり方があるということの説明周知も含め、継続的に進めていただければと思います。そういう意味では相手に行政と一緒に取り組める窓口のような組織的なものがないとなかなか難しいのかなと思います。</p> <p>それから計画には直接入っていませんが、やはりこの一つの目玉は酒蔵さんだと思います。まだ、酒蔵さんの母屋が再建されていませんが、景観的にも非常に大事なことでもありますので、商工関係とか景観とか色々な面で行政からもぜひ応援していただければと思います。</p>
<p>江口委員</p>	<p>・三年間、関わらせていただき、また市民の方々、行政の方から大変お世話になり、ありがとうございました。</p> <p>当たり前の話なのですが、にぎわいに向けたまちづくりの活動を続けてほしいということに尽きるかと思います。今、まちづくり会議があって創成塾があってリノベーションスクールがあってということで、まちづくりに関する機運は徐々に高まっているのは間違いないと思います。この機運を実際のにぎわいにつなげていくには、まだまだ市民と連携して、引き続きこうしたワークショップを含めて、話し合いの場を継続して欲しいと思います。</p> <p>たまたま昨日、ある観光地のまちづくりの会議に出席したのですが、今、観光地は大変な状況にあり、経済も非常に停滞している中で、出席している観光関係の方々、目先は大変なのですが、やはり将来に向けて自分たちの地域をどうしたらいいかということに対する意識が非常に強い方も参加されました。それは、なぜ参加するのかと言えば、やはり自分たちの子どもや後世の人に自分たちの温泉だったり自然景観だったり、町並みを残したいという非常に強い思いを感じました。また、1回まちづくりを始めて、それを止めると、もう1回立ち上げるのは、ものすごく大変なのを皆さん知っておられるので、1回始めたら続けたいという気持ちがあるということは、私も勉強になりました。</p> <p>そうは言っても、まちづくりをやられている方々は、自分の仕事を持ちながらまちづくりをしなければならず、二足のわらじとなり、大変で休みたくなります。しかし、休んでしまうと立ち上がるのが、さらに大変になるので、その辺は無理のない範囲で、まちづくりを進めていくやり方を模索していくのが重要なのかなということを最近、自分自身が感じているので、改めてこの場でお話させていただきました。引き続き継続して頑張っていただきたいと思います。</p>
<p>中出委員長</p>	<p>・最後に、私から。よく「創業は易く守成は難し」と言われますが、まさに復興計画を作って、復興で「えいやっ」とやっていくうちは何とかなりますが、今ほど皆さん言われたように、それを続けて、まちづくりという形で息長く進めていくというのが大変だと思います。その仕組みを、まず行政がプラットフォームだけでも用意しておいて、そこに市民の皆さんが積極的に関わっていただくという仕組みを作ってもらえれば一番いいのではないかと思います。</p>

<p>4 閉会 (司会)</p>	<p>糸魚川は、生かすべきものを生かしきれてないところが、若干あると思います。あんこう祭りもよいですが、日本海ならどこでもとれたりもします。でも、糸魚川には日本に一つしかないものが複数あります。少なくともヒスイは、日本中で糸魚川しか取れなくて、多くの縄文遺跡から糸魚川のヒスイが出ていますし、世界中にも5~6箇所しかヒスイが出るところがありません。また、小学生でも社会科で糸魚川静岡構造線を習うので、みんな糸魚川という名前を知っていますし、世界ジオパークにもなっています。日本に1個しかないものというのは客を集められるはずです。日本で二つか三つならば、その地域の人達以外の人も集まってくるかもしれませんが、日本に一つだったら世界中から来るかもしれませんし、日本中からもお客を集められます。日本に1個しかない肩書を幾つも抱えている町なので、ヒスイにしろジオパークにしろ、起点はまちなかだと思います。糸魚川の場合は、駅がほぼ街の真ん中にありますから、そのような形で糸魚川の良いところを前面に出していただければと思います。</p> <p>新潟県のトキや兵庫県のコウノトリなどのように日本に一つしかない価値を糸魚川は持っていますし、交通の結節点でもあるので、それらをうまく使って、まちづくりをやっていただければと思います。</p> <p>人口が減少するのは別に悲観することではなく、少ない人口の中でやりくりするという事は、色々なことの1人当たりが多くなるわけなので、それを逆手に取ることもできると思います。人口が減ると言ってもゼロにはならないので、住んでいる人が幸せに生きられて、なおかつ外から人が来てくれるというまちづくりを50年後を目指してやれば良いという気持ちで、糸魚川大火をうまくまちづくりに使いながら進めてもらえればと思います。</p> <p>積み残した課題も幾つもあると思いますが、それは復興計画の中だけで閉じるものではなく、まちづくり、或いは都市計画とか糸魚川市の都市経営の中で対応していくような、息長く続けていく問題も沢山あると思いますので、次の世代もずっと引き継いで糸魚川市を盛り立ててもらえればと思います。</p> <p>ここにいる少なくとも4人は応援団であり、なおかつ手厳しいコメンテーターだと思いますので、頼りにしていただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。</p> <p>14:45 終了</p>
----------------------	--